

校訂
讀本

稻垣千穎
普及舍
著閱

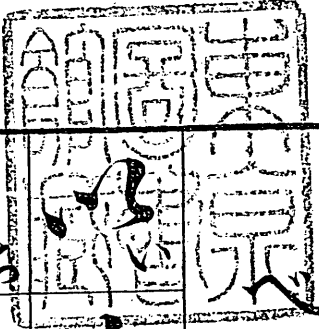
第三

178
3
62

館藏書會百數本日大			
六	六	五	二
六册	六號	五架	五函

K/20.8
3

No. 4556



校訂

讀本第三

稲垣千穎 閱

普及 舍著

つたの ひらかな いろは

ら	は	ひ	つ
り	る	は	の
ぬ	ぬ	は	ひ
ふ	ふ	に	ら
を	を	ほ	か
わ	わ	へ	な
か	か	と	は

讀

本

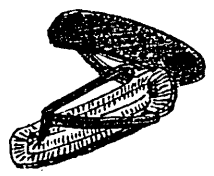
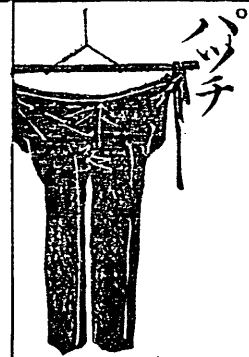


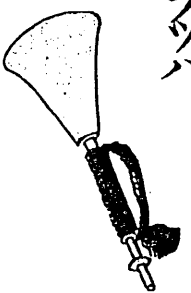

第三

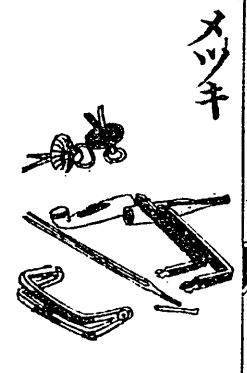
普及生活蔵版

魚 <small>いさな</small>	河 <small>か</small>	屋 <small>や</small>	鞋 <small>ら</small>	と <small>よ</small>
毛 <small>ひ</small>	毛 <small>さ</small>	浦 <small>ま</small>	世 <small>む</small>	多 <small>た</small>
毛 <small>も</small>	丸 <small>ま</small>	菊 <small>け</small>	字 <small>う</small>	毛 <small>れ</small>
勢 <small>せ</small>	由 <small>ゆ</small>	畑 <small>ふ</small>	井 <small>ゐ</small>	毛 <small>う</small>
志 <small>す</small>	免 <small>め</small>	六 <small>こ</small>	乃 <small>の</small>	津 <small>つ</small>
	毛 <small>み</small>	え <small>に</small>	お <small>た</small>	祿 <small>ね</small>
	志 <small>し</small>	毛 <small>て</small>	之 <small>く</small>	毛 <small>な</small>

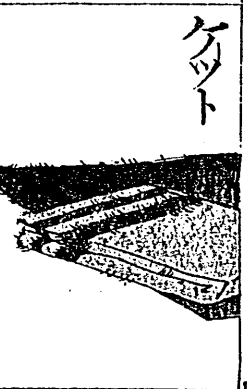
たんど

つまのたん

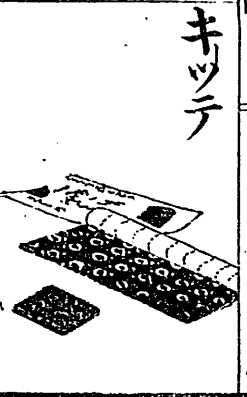
セツタ 	パンツ 
カツパ 	グツタ 
コップ 	コップ 



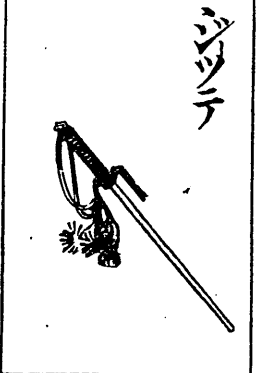
メツキ



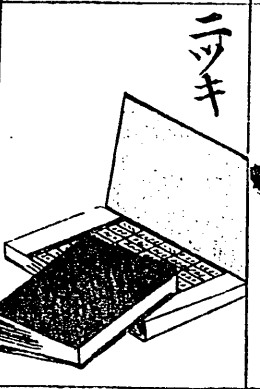
ケツト



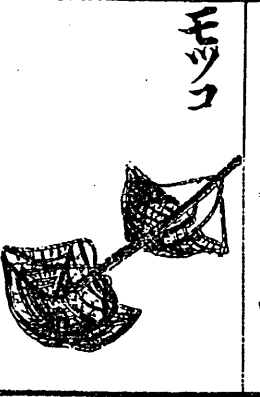
キツテ



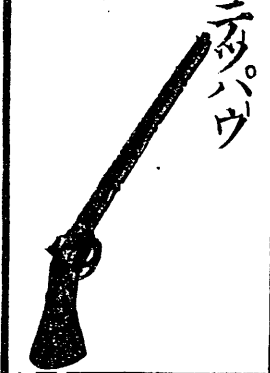
ジツテ



ニツキ



モツコ



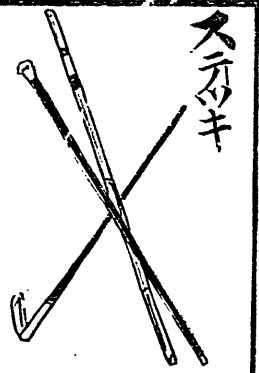
ニツパヴ



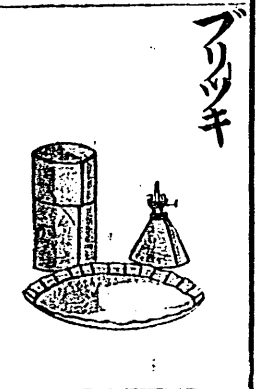
スツボン



チツキ



スツキ



ブリツキ



ベツカフ

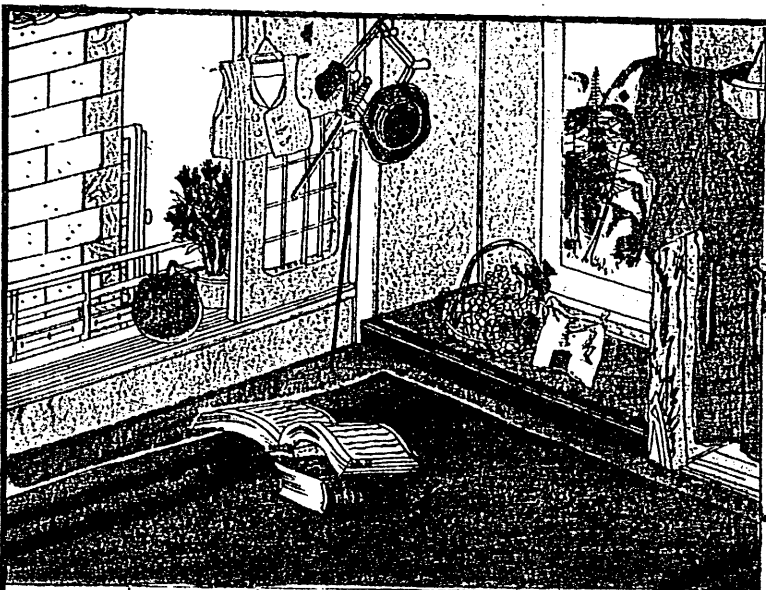
短句

一

あかき けつと ふねち あつて

ほそき きつて たかき たふ

ひくち ばらち ながき かつは



みづあき ちのあき。
 ねあき せんぐわ
 せあき へんあき
 わー ちのあき ちのあき
 ちのあき ちのあき
 もし ちのあき ちのあき

きん からま たうがらー！ あ
 ぶたう。

短句 二

ゆわうくさー！ こせう からびー！
 にき あつー！ まうせん うまー！
 さたうあまー！ せうちうつー！

あやうが かりー！ めなう あかー！
すてつき ながー！

短句 三

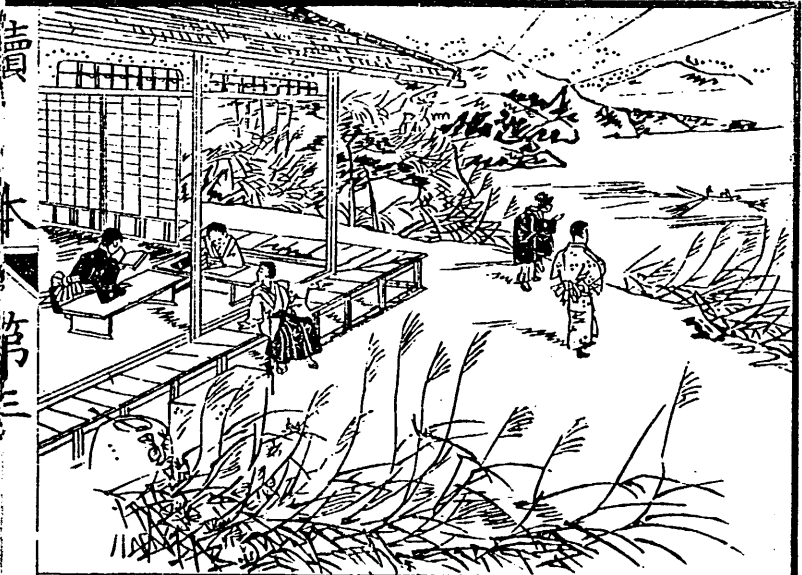
山川、火、水、大、小、天、毛、月、玉、
山、の、た、か、く、し、て、川、の、な、が、ー、火
の、あ、つ、く、し、て、水、の、ひ、や、な、り、み

き、の、ふ、と、く、し、て、江、だ、の、ほ、そ、ー！
う、ー、の、大、く、し、て、ね、こ、の、小、ー！
こ、め、あ、る、く、し、て、ゆ、ま、の、え、か、ー！ 水
あ、ま、く、し、て、天、の、ご、と、ー！ い、と、ほ、そ
く、し、て、毛、の、ご、と、ー！ ひ、る、く、ら、く
し、て、よ、る、の、ご、と、ー！ く、あ、の、く、ら、

きことすみのごとく。 はなめ
 あかきことつにのごとく。 くる
 まのはやきことやにいたり。 月
 のまろきことむにいたり。

短句 四

日、西、入、皆、人、字、本、彼、女、多、



日ハまぎでニ 西ニ
 入ル。 月ハまぎでニ
 ひがーにのぼる。
 うをハみな水ニ
 まむ。 人ハ皆ハ入
 ニまむ。 むハ

多くくさむらになく。 けだものゝた
 ほく山にまむ。 かれゝよく字
 をうつま。 なんぢゝよく本をよ
 む。 彼のこどもゝつねに はかま
 をはく。 この女ゝつねに はわり
 をきる。 この人ゝつねに くつを

はく。

短句

五

牛、音、羽、白、井、戸、秋、冬、花、
 打、友、

牛のつのと うまのを。 あかぬ
 のけあかーと てるのひばー！

ころぬりのぜんこぎんのはー！
 かねのねにたごの音オト・とりめ
 羽にうをのひれ・ごむの玉に
 いとのみり・すみいくろくゆき
 の白！ 山いたかくたにいひく
 ねぢみい小く牛い大！ は

るいはないさきいあきい月いさゆ
 やいないぎいみいどりいはいないくいれいなる
 いいけいあいさいらい井い戸いふいかい！
 ないはいたいらいいいといほいそい！
 はいるいあいたいかいにい秋いはいすいぎい！
 ないついあいついくい冬いはいさいむい！

ひるハ ねきよるハ いぬ・ ひる
 いたわがくら 夜ハ あづかなり
 きれいなる たびに 白き まぢあり
 大なる うをに ながき ひれあり
 たかき いへに まむ人あり・ ひる
 き川に うかぶ ふね あり・ みた



るハ はなに まふ
 てふ あり・ 志
 だる ちたぎにと
 ぶつむめ あり
 さく花を ながむ
 るらうじん あり

詩言

本抄

十六

五言 夕景 新編

なくいぬをあつわらばあり

はしる友をよぶをことあり

たつるくりをひろふ女あり

短句 六

空、青、海、梯、木、春、太、尾、

目、手本、此、机、其、厚、絲、池、

米魚

ざくろのは髪も赤くも、のはな

もあか！ 空のいろもあをく

うみのいろも青！ たひも

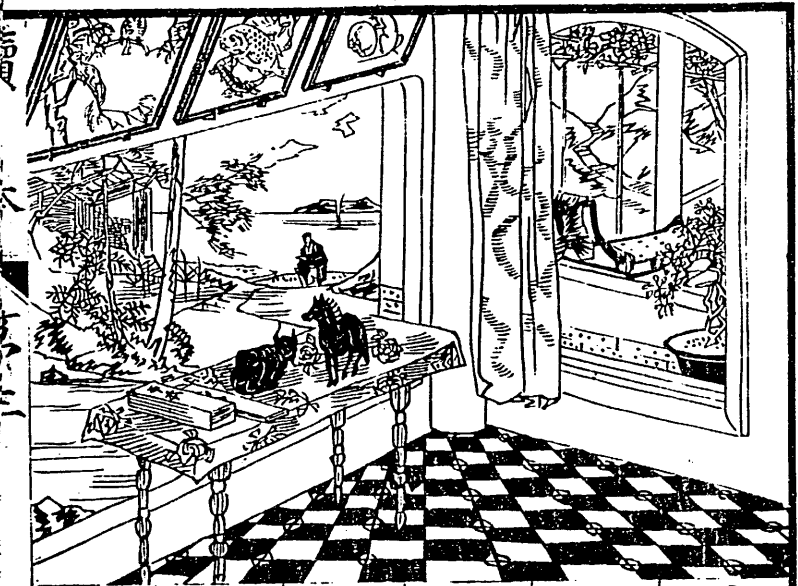
海にきみくぢらも海にまむ

梯も木になりくりもまにな

る。春の日のあたりに秋の
よひすゞし！ なつのよひみぢ
かく冬のよひながし。 かいだう
の花のあがくなしのはない白！
牛のつのはなくうまのたづがみ
のながし！ ねぎみの尾のほそ

くりきのをいたし！ くら
の目のほそくふくろぶのめい
ろし！ 彼のま本のあつく此
のてほんのうすし。このねの
たかく其のねだいのひくし。そ
まぬいっつぎくこのまぬい
厚し！

このみちのひろくかのみちの
 せま！この緑のほそくその
 いとふと！かの池のあさ
 くこのいけのふか！くらに
 来ありなやにわらあり！
 どりには羽ありうせにう



ろこあり。川に
 もうをありうみ
 にも魚あり！
 山にもけたものあ
 りうみにもけたもの
 のあり。

短句 七

上、中、椅子、下、内、床、右、左、前、
 犬、出、夏、早、南風、東、枝、咲、涼、
 時、雨、凍、氷、
 つくゑの上にはこありはごの
 中にふであり。 つくゑのかた

はらに椅子ありいまの下に
 かつあり。 棚の上にはふんこ
 ありふんこの内にかみあり。
 床の右にはなれありはなれ
 の左にはんげとあり。 びやうぶ
 の左にひばちあり ひばちの前に

いびんあり。火のさきにまみさる

の山にまむ。日の出づるとき

をあさといひ。日の入るときを

夕といふ。夏のむぎをかり

あまのいねをかろ。なつひと

へをま。冬のわたいをまろ。

あさひ早くねきよるのねりく

いぬ。ひるの本をよみよるの

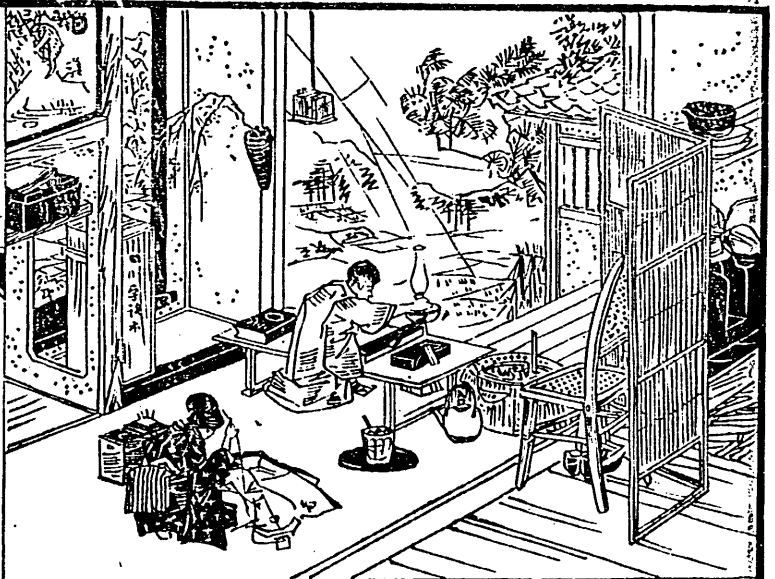
字をうつき。なつミナミカゼの南風ねほく

ふゆのまたかぜ多し。東の日の

出づる方西の日の入るかたあり。枝

のみまよりいではるはだよりいづ

あたらかふる。ときいはな咲き。涼
 きときいむしなく。あまき時
 はしづりさむきときいはたつ。
 なまかまいてつにてい血はちい
 つちにてつくる。やねの尾にてふま
 かべい土にてぬる。くもこりて



雨となり あめ
 凍りてみぞれと
 なる。みづむき
 びて氷となり
 氷とけてみづ
 となる。

短句 八

習、子供、豆、雀、蚊、色、八重、虹、夜、
 向、北、父母、一年、又、一時、分、秒、
 高、谷、交、間、勉、事、信、以、光、耳、
 口、見、聞、言、拙、第一、能、
 みどり、の、黄、と、青、と、にて、なり

むらさき、の、赤、と、あを、と、にて、なり、
 字、を、習、ひ、本、を、よ、み、そ、ろ、ば、ん、を、
 まなぶ、の、子供、の、つとめ、なり、
 こま、人、の、う、や、ま、は、れ、ろ、か、な、る、人、の、
 い、や、も、る、は、と、の、豆、を、ひ、ろ、ひ、
 雀、の、あ、は、さ、つ、い、ば、む、
 か、う、も、り

の牧をとりからせのせみをいさる。
 うめの色にあかと白とあり。
 やまぶきの花にひとと八重と
 あり。志深のたほくうみの水よりせが
 すみの木をやまてつくる。 あさ
 の虹はにくにみはゆめづの虹

の東にあらはる。 日のあるうち
 をひるといひひの入りたるのちを
 夜といふ あさひに向ひて右の
 かたをみなみといひ左のかたを
 北といふ さるの木ののぼり
 て梯をいりさぎの川にわりて

うををとり。父母をたふどびら
 やまむてそのいひつけをまあるべし
 うなまこひふなめたぐひの川
 又みづうみにすむ。一年の十二
 か月にして一ちうやの二十四とき
 一時の六十分一分の六十秒なり。



山の地の高き
 ところにして谷
 山と山との
 間なり。かこ
 ま人とならんこ
 とをねがはば効

めてよまの事よまよまべー！ 父母

に仕ふるにのかりをつく友と交る

にの信を以てまべー！ 玉みかか

ざれば光なり人まなばざればち

る出でず。人フツシにの二の耳と目と

あれども口ヒトシのたご一なれば見聞

まの心まをく言ふべから

ず。人のよみかきを第一の

つらめとまべーよみかき 拙けれ

ばあが心を人にくらさること能は

ぎ。人の氏よりそだちとてそ

だちかたよからざればあしき人

となるべし。

短句

九

學、幸、怠、始、細、足、有、貴、孝、行、
大、切、指、五、本、中、馬、力、助、故、勿、
世、益、常、用、造、尺、寸、分、厘、丈、
升、亦、合、勺、斗、才、石、

つとめ學ぶの幸のもとも急り

なばざるいあざはひの始なり。

てふにフタツ二の大なるつばさ

と二の小きつばさと六の細き

足と一の長き口とあり。ある

ことを有るといふの信なり

なまことを有りといふいづはり
 なりまことい貴ぶべくいづはりの
 いやむべ！ 人のふたたやに
 かりくなるべう孝行といち
 はくを大切にまゐることなり
 人に二の手と足とありて



手足ともに指
 の五本つつあり
 けだものの中に牛
 と馬とい人の
 力を助くること
 多し故にもの

言 本 第三 四十三 書 卷 第三

いはぎとてむごくつおふこと、勿れ。
むしらのうちに世の光と成るもの
のいおひこ山まゆみつばちにまよ
るものな！ 川の氷に志ほけ
けなくらみの氷に志ほけあり
人の常に用ふる志ほけに

うみの水より製す。尺のめにいろ
いろのとなへあり一尺を十に
分ちて其の一を一寸といひ一寸を
十に分ちて其の一を一分といひ
一分を十に分ちて其の一を一厘
といふ一丈といひ一尺を十あつ

讀 本 第三 四十三 書 卷 第三

めたるものなり。 升にも亦い
るくのとなくあり一升を十に
分ちて其の一を一合といひ一
合を十に分ちて其の一を一勺と
いひ一勺を十に分ちて其の一を
一才といふ一斗といひ十升とい

ひ一石といひ十斗をいふなり。

短句 十

物、酒、道具、身、日用、食物、皆、
作、一粒、至、草木、散落、松、枝、
葉、泳、知、何、得、鳥、方、地、天、廣、
限、汝、暑、寒、恩、忘、何、事、業、

種、基、流、如、田、學問、費、油等、
 讀、書、守、教師、背、

尺、の、物、の、ち、が、さ、を、は、か、る、た、ら、う、
 ぐ、に、志、て、針、の、米、む、ぎ、又、の、
 酒、な、ど、の、多、さ、を、は、か、る、道、具、

なり、人、の、よ、ろ、づ、の、物、の、長ヲサ



なれば善き道
 を以て身を
 さめ信を以て人
 に交るべ！
 米の日用かく
 べからざる食物

にして皆のうふのはねをりて
 作れるものなれば一粒もそまつ
 にまべからむ。冬に至れば
 草木のはのみな散り落ちて
 たぐ松枝のたぐひのみ葉あり。
 かの氷に泳ぐとりを 知れり

やかもなりかも何を以て
 泳ぎ得るか彼の鳥のありに
 みづかきあるを以てなり。上に
 あるの天にして下にあるの地
 なり 天の大きさのはかるべ
 からむちの廣さの限あり。

汝らの暑さを寒さを志のぎを
 こゝかにてあるの父母のたまものなれば
 その恩を忘るゝこと勿れ 何
 事も心を用ひ業をはげみて
 みのあんらくをもとむべしたの
 しみいぐるしみの種タネくるしみた

のしみの基なり 月日の流
 るゝ氷の如く一たび去りては又
 復らざるゆるに學問をつとめ又
 の志こころよくげふを習ふものいむは
 まに時を費さべからざる 汝等
 よまの人とならんことを希は

は讀書ヨミカキを勉めならひ父母の言
を守り教師の教に背くべから
らむ。

短句 十一

麥、菜、農夫品物、工人、賣買、高、
誠、蟲、厭、餌、穴、茲、立、在、然、照、



加、乘、減、除、十
倍、掛、割、寄、數、
米、麥、又、菜、だ、い
らん、な、ど、を、つ、く、る
人、を、農、夫、と、い、い
ひ、さ、ま、だ、ま、の

品物をせいするものを工
 人といひ、いろく品の品を賣買
 するものを商人といふ。あり
 は誠に心がけよまは蟲にしそ夏
 のあつさをもち厭ふことなく餌
 を穴の中にはこびてながまき

冬の間の食物とす。茲に
 ひとりの人立てりその人のかけ
 は何の方^{かた}に在りや左の
 方にあり然らば日はいづれの
 方より照るや右の方よりてら
 ば。物をかぞふるに一に二を

乗れば二なり二に二を乗
 ざれば四なり四に一を加ふれば
 五なり五に五を加ふれば十なり
 十より二を減ざれば八なり八よ
 り三を減ざれば五なり十を五
 に分てば二となる。 十を十

倍すれば百なり百に十を加
 くれれば千なり千を十にわかれ
 ば百なり六と七とを家すれば
 ば十三なり十三より九をひけ
 ば四なり凡て物を数ふること
 を知らざれば何の業をもいとな

むとせに終はむいさけたまふとせ

に つとめてこれを習ひたほゆ

べー。

羅馬數字

I	1
II	2
III	3
IV	4
V	5

L	50	VI	6
C	100	VII	7
D	500	VIII	8
M	1000	IX	9
		X	10

明治十八年三月十日版權免許
同年五月出版
同二十年四月十六日訂正

著兼出版
發兌



普及舎

定價九錢

東京下谷區練塙町西番地

賣本 第三 五十九 普及舎藏版